



2015年3月20日

各位

会社名 マックスバリュ中部株式会社
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 芳知
 (コード番号: 8171 名証第2部)
 問合せ先 取締役管理・総合企画本部長 望月 俊二
 (TEL 052-857-0719)

業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2015年1月9日に公表しました2015年2月期の業績予想を、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

また、同期間において、下記のとおり特別損失を計上いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(金額の単位: 百万円)

2015年2月期通期連結業績予想数値の修正(2014年3月1日~2015年2月28日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	165,000	850	900	10	0円32銭
今回修正予想(B)	164,900	430	530	210	6円63銭
増減額(B-A)	▲100	▲420	▲370	200	—
増減率(%)	▲0.1	▲49.4	▲41.1	2000.0	—
(ご参考) 前期通期実績 (2014年2月期)	153,218	1,607	1,763	393	12円43銭

2015年2月期通期個別業績予想数値の修正(2014年3月1日~2015年2月28日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	163,500	1,250	1,300	350	11円05銭
今回修正予想(B)	163,200	1,000	1,070	500	15円79銭
増減額(B-A)	▲300	▲250	▲230	150	—
増減率(%)	▲0.2	▲20.0	▲17.7	42.9	—
(ご参考) 前期通期実績 (2014年2月期)	152,635	1,751	1,869	477	15円08銭

2. 修正の理由

2015年2月期通期においては、火曜市や週末の品揃えの見直し、イオンの電子マネーWAON（ワオン）を活用した販促強化、食育企画「ちゃんとごはん」などの差別化戦略に取り組みました。しかしながら、長引く個人消費の停滞や業種業態を越えた競合他社とのシェア争奪による価格競争は一層激しさを増し、引き続き厳しい経営環境となりました。最大商戦である年末年始についても厳しい経営環境は変わらず、残り期間業績の向上に向けて取り組んだものの、トレンドを変えることができず、前回の業績予想を下回る見通しとなりました。

個別業績については、年間累計の売上高既存比が98.3%（計画99.0%）となり、営業収益は計画を下回る見込みとなりました。荒利益額については、売上高の不足に伴う荒利益額の不足に加え、荒利益率が年間累計で24.9%（計画25.0%）と計画より0.1ポイント下回って推移し、営業総利益額を押し下げることとなりました。一方、販売費及び一般管理費は経費削減を実施し、上期トレンドより改善が図られつつあるものの、経費構造の大幅な変革には至っておらず、15店舗（イオンマーケット株式会社からの譲受6店舗、株式会社光洋からの譲受1店舗を含む）の新規出店に伴う一時経費の影響もあり、販売費及び一般管理費の伸びが営業総利益の伸びを上回る状況となりました。当期純利益については、減損損失609百万円を計上したものの、所有不動産を売却したことに伴い、過年度に計上した減損損失が税効果会計適用となり、法人税等調整額▲461百万円を計上したため、業績予想を上回る見通しとなりました。

通期の連結業績につきましては、個別業績の影響と子会社の永旺美思佰樂（江蘇）商業有限公司の荒利益率が計画を下回ったことにより、営業利益が業績予想を下回る見込みとなりました。当期純利益は個別業績と同様の理由により前回の業績予想を上回る見通しとなりました。

以上の理由により、2015年2月期通期の連結及び個別の業績予想を修正いたします。

3. 特別損失の計上

減損損失 609百万円

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社の保有する固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、下期の店舗に係る減損損失は494百万円となり、上期に計上した114百万円と合せ、通期で609百万円を特別損失に計上いたします。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上